

今を未来に

6年生卒業に向けて

卒業式の前週、私はいつも教室で卒業する6年生を待っています。目的はランドセル写真を撮らせてもらうためです。保々小学校で教員をさせてもらっていた時から、チャンスがあれば卒業式に近い日をねらって、写真を撮らせてもらい、卒業式の当日、保護者の皆様に大きくなったわが子の成長を実感していただきたいと思って、撮り続けてきました。教員の時は3年間、校長になって5年間、この写真だけはこだわって撮らせてもらってきました。

毎年そうなのですが、6年生は「何事？何でランドセルなの？」と聞いてきます。「みんなの成長を確かめたくて。小学校に入学した時、ランドセルをはじめて背負った時もお家の方に写真撮ってもらったのと違う？」と返事をする、「そう言えば、昇降口の所で撮った写真があるかも。」と、返事が返ってきます。友だちがみんな見ている前で撮りますから、多くの子が何となく恥ずかしそうな表情を浮かべますが、どの子も素敵な笑顔を見せてくれます。今年も、全員の写真が無事撮影できました。



卒業式前日の準備

今年から、4年生の子どもたちにも卒業式の準備に入ってもらいました。卒業式の式場に関係するところは5年生、式場以外の所で6年生の先輩が当日使ったり、通ったりするところは4年生と役割分担をして、取り組みました。昨年までは、夕方4時近くになっても、式場の準備は目処がたたなくて、最後は教職員が夜の8時、9時になっても、ほぼ全員で式場準備をしていました。今年は、4年生の子が手伝ってくれたことと、5年生を体育館式場とその周りの準備としたことで、集中して取り組めたので、早く準備を完了することができました。絨毯の上に残った小さなゴミをガムテープで全てとり終わったのは夜の8時を過ぎていましたが、いつもの年よりうんと早い時刻に6年生担任と管理職の最終確認を終えることができました。



1年生の子が卒業式のために育ててくれた寄せ植えの花は式場入口に並べられました。

そして、卒業証書授与式が挙行されました。（3月20日）

そして、3月20日（水）とても良いお天気に恵まれ、61名の卒業証書授与式が挙行されました。残念ながら1名の欠席となりましたが、晴れやかな表情で、どの子も登校してくれました。後から担任から聞いたのですが、朝家を出る前に「小学校を卒業するのが寂しい。」と、涙を流してから来た子もいたそうです。



卒業式は、予定通りに始まりました・・・と報告したい所でしたが、卒業生が体育館に到着するのが少し遅れたため、来賓の方や保護者の方には、数分でしたが、お待たせして、卒業式が始まりました。5年生の人たちが「威風堂々」を演奏してくれる中、堂々とした表情で入場してくる卒業生でしたが、本当に緊張していて、体が思うように動かないという感じの子が何人もいて、私にまでその緊張感が伝わってきました。

はじめに国歌を斉唱し、いよいよ卒業証書の授与となりました。保護者の皆様や来賓の皆様、在校生代表の5年生と職員が見守る中、一人ひとり自分で考えた言葉をしっかりと伝えて、卒業証書を受け取りました。一瞬詰まってしまった子もいましたが、今までの自分の成長を振り返る子、感謝の気持ちを伝える子、仲間への思いを話す子、未来に向けた自分の夢、そしてどんな生き方をしていきたいか決意を伝える子、どの子の言葉も、本物（本心）だと感じる言葉でした。私も、一人ひとりに贈る言葉を考えて、卒業証書を渡す時に言葉を添えさせてもらいました。

その後の私からのお祝いの言葉は、5年前の出会いの時に感じた卒業生の思い出と、最高学年となったこの1年間の卒業生の成長への感謝の気持ち、特に6年生を送る会の時のUSAの替え歌に込められていた在校生の思いを伝え、最後に「かまど金」の話を見せてもらいました。その中で、保々小学校の歴史も振り返り、この伝統ある保々小学校の卒業生であることを誇りに思い、6年間で学んできたことを心の糧として、仲間とともに、力強く歩んで欲しいと結ばせてもらいました。



その後、市長・教育委員会告示をいただき、来賓の皆様と祝電の紹介をさせていただき、卒業記念品とお祝いの言葉をPTA本部役員の代表の方からいただきました。

そして、いよいよ旅立ちのことばでした。一人ひとりの台詞に自分の思いを重ねて伝えることを目標に、何度も練習を重ねてきた6年生です。体育館中に響き渡る声量で言葉を続け、歌声を響き合わせ、5年生に保々小学校の伝統を引き継ぎ、卒業証書授与式は滞りなく、終わりを迎えました。

入場が若干遅れたり、国歌の前に少し違う曲が流れたり、学校長の言葉の後半から告示の前半まで電気が消えたり、5年生が体調不良で次から次へと座り込んでしまったり、それが数名の6年生にも伝わり、少し（いや、卒業式としてはかなり）ばたばたしてしまいましたが、こうしたハプニングに動ぜず、堂々と退場していく姿は、本当に立派でしたし、この学年の子どもたちの持てる力を改めて感じました。

見送りまでに少し待つ時間が長くなったのは、6年生の子が担任の先生方へのサプライズを計画していたからです。6年生の先生は「式の最後に何か声をかけられるかと思っていただけ、まさか3階へ上がってからサプライズがあるとは思っていませんでした。」と、話をされていたので、卒業生のサプライズも大成功！だったようです。